自由南アフリカの声_{No}17

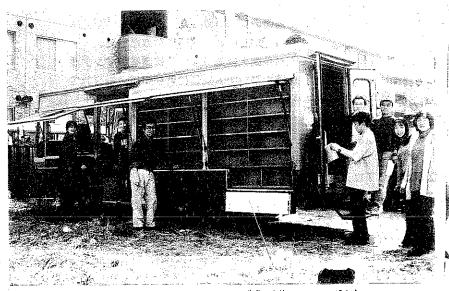
Wolce of Free South Africa 発行 アジア・アフリカと共に歩む会 Published by Together with Africa and Asia Association(TAAA)

1998年5月の報告と予定

- ■1998年2月浦和市にて報告会と写真展示
- **■**4月ELETへ2713冊送る
- ■5月ME | へ6486冊送る
- ■ハウテン州へ送付予定の車を保管中。

目次

南ア副大統領夫人Mrs.Mbekiを囲んで	2
平林薫さんの南アだより	3
新聞記事(アサヒイウニンクニュース、細繝)	4
南アフリカで大歓迎の中古BM	6
ドミサニさんを悼む	8
1997年度決算書	Ω



南ア、ハウテン州教育局へ送付する予定の移動図書館 ……… 浦和市にて



来日中のムベキ副大統領夫人

南ア副大統領夫人"Mrs. Mbeki"を囲んで

4月9日に来日中の南アフリカ副大統領タボ・ ムベキ氏が国連大学で講演を行い、当会から は野田千香子、浅見克則、 、久我祐 子の4人が出席した。「アフリカン・ルネッ サンス」という題のその講演内容は、南アフ リカだけでなくアフリカ大陸諸国全体の再生 を唱ったものだった。従来の西側への依存体 制から脱却し、貧困、飢餓、累積債務、内部闘 争などいまだ多くの問題を抱えるアフリカ大 陸を自らの手で再生していき、同時にアフリ カの伝統や文化を再認識ていこうという前向 きな力強い内容だった。ムベキ氏の講演のあ と、NG0関係者はムベキ夫人を聞んでの短い お茶会をした。旧黒人居住区ソエトの貧困地 域で育ったというムベキ夫人は、長年NGO活 動に身を投じてきた方で、副大統領夫人にな った今でも精力的に活動を続けておられる。 そんな夫人は、来日中に是非南アに携わる日 本のNCO関係者と会いたかったそうだ。 各NGOの自己紹介がひととおり終わると、熱 心に聞いていたムベキ夫人は、南アにおける NCO活動の重要性や問題点を次のように話し てくれた。

- ・南アでは都会と地方の格差が著しい。対外的には、例えば他のアフリカ諸国に対して積極的に投資を行っている南ア経済だが、 国内の遠隔地への投資は滞っており、地方の開発は非常に遅れている。そのような地域でのNGOの役割は今後も非常に大きい。
- ・ 海外からの援助機関やNGOが南アでプロジェクトをしていく上で注意すべき点は、自分たちがそこを引き上げた後も、プロジェクトが継続していくようにプロジェクトを地元に根付かせることだ。それには、地元の住民やNGOを積極的に参加させ、プロジェクトを運

久我 祐子

行していく能力を育てていく必要がある。国際NGOが去った後、プロジェクトが停止し、 地元にはなにも残らないというケースがしば しばある。

- ・地元のニーズは地元の住民やNCOが一番よく知っている。しかし、南アのNGOと国際NGOが協力していく場合国際NGOの発言の方が強い場合がよくある。南アのNGOは、海外のNGOからのプロジェクトの提案を鵜呑みにするのではなく、自分たちが必要としているプロジェクトを進めていくべきだ。逆に、海外のNGOは、地元のニーズにもっと耳を傾けるべきだ。
 - ・ 今後の南アの健全な発展に一番大切なのは人的資源なので、国民の教育レベルを上げることは急務である。日本のNCOのなかに、英語や移動図書館車を送るなど、教育に関するNCOがいくつかあることを知りとても嬉しく思う。

どちらかというと小柄なムベキ夫人は、大きなジェスチャーもなく終始落ち着いて淡々としかし力強く語ってくれた。経験に裏付けられた基礎のしっかりした人、そんな印象を持たせる安定感のあるすてきな方だった。

◆ムベキ副大統領は来年の総選挙後マンデラ 氏の後を継いで大統領に就任が確実視されて いる。



ムベキ副大統領夫人とNGOとのミーテイング ……… 国連大学にて

Pizza Lon Telo (1)

平林さんはANC東京事務所のスタッフでした。現在は南ア、ジョハネスバーグの旅行会社に勤務しています。ジョハネスに住む平林さんからのいきいきとした情報をお伝えしましょう。

くるま社会

この国は公共の乗り物に頼ることができません。バスは一部のエリアしか網羅しておらずまたいつくるかわかりません。電車もあるにはあるのですが、限られた地域のみです。実際、ジョハネスパーグからプレトリアまで電車に乗ったことがあるのですが、途中意味もなく止まったりして(アナウンスもない)片道2時間以上かかってしまいました。線路は金鉱をぬうようにして走っており、ほた山があちらこちらに見えます。

とにかく公共の乗り物で移動しようとしたら 一日がかりになってしまいます。というわけ でこの国では車を持たないとどうにも動きが とれないのです。でも、これだけ多くの人々 が車を利用するということはもちろん渋滞も 起こります。ラッシュアワーは東京並みでハ イウエイで動きがとれなくなってしまうほど です。生活必需品のわりには車の値段が高く 新車は一般人にはとうてい手が出ません。こ ちらでは"新車か家か"という選択がなされ るのです。ですから何十年前の日本では化石 となっているモデルの車が今でも走っていま す。そして、ハイウエイの片隅で困った顔を してポンネットを開けている人をひんばん見 かけます。この国では日本車に対する信頼度 が高く、特に乗り合いタクシーはトヨタのハ イエースと決まっているようです。くるま" と言えばズールー語でクルマは、話す。という 意味です。人々は道端でお店でシャビーン(酒場)で大声でクルマしています。本当にこ こはくるま社会なのです。

モンスター退治

ジョハネスバーグは大都市なので、あまりアフリカにいるという実感がわきません。ただ 私のフラットのまわりは緑が多くいながらバードウオッチングが楽しめます。フラットの庭にはさぎのような鳥がゆうゆうと歩いているかと思うと黄色やオレンジのかわいい小鳥が木々を飛び回っています。朝は鳥の声で目を覚まします。(東京にいた時はカラスの声で目を覚ましていたっけ)

でもこれが車で4、5時間北に上がると"カ バン注意"の看板が出てきたり、ワニに噛ま れただの、家畜がチーターに襲われただのと いった話が絶えず、やはりここはアフリカな。 のだと実感します。何年か前にはクルーガ国 立公園内をドライブしていたチャイニーズの カップルがライオンにアタックされて死亡す るという事故もありました。自然の中の野性 動物だということをすっかり忘れてしまった のでしょう。最近ではモザンビークからの不 法移住者たちが国立公園内を通過する際にラ イオンに襲われるケースが増えています。怖 い話ですが、ライオンも一度人間の味を覚え てしまうと、マンハントをするようになるの だそうです。でもとりあえず、ライオンやチ ーターなら話はわかるのですが、最近奇妙な ニュースがありました。東ケープ州(以前の) トランスカイ) のある川に半分魚で半分馬の 形をした大型の珍獣が住んでいて、近寄る人 間をかみ殺すというのです。実際に何人か殺 されていて父親を亡くした少年の証言もあり ました。川の周辺に住む人々は恐怖におのの き、警察に早くこの珍猷を退治してほしいと 訴えているのです。この国の警察は増加する 強盗、カーハイジャック等に対処するのに おおわらわですが、おまけにモンスター退治 とは大変です。



Spreading the word from Saitama in South Africa

Volunteers in Saitama Prefecture are sending books and mobile libraries to South Africa, where black children in many schools lack any textbooks.

By ROY K. AKAGAWA Asahi Evening News

improving the education environment of The vehicles sent from children in South Africa. Japan were all headed for the through the donation of scrapheap here because of English books and mobile regulations stipulating that libraries.

set up in Saitama in April 1992 by Chikako Noda, who runs a local juku cramming school. Over the past six years, TAAA has sent about 120,000 English books to South Africa and seven mobile libraries to South Africa.

The agreement by Gauteng state in South Africa to cover operating expenses for the mobile libraries sent there is a bright sign for our group's. activities." Noda said.

In the past, TAAA had sent

bookmobiles to nongovernmental organizations, only to discover that these NGOs had volunteer group in problems paying for the gaso-Saitama Prefecture is line and other costs of runplaying a small part in ining the mobile libraries in the field.

such vehicles cannot be used Together with Africa and for more than 10 years. Since Asia Association (TAAA) was the vehicles were often still serviceable, TAAA called on municipalities that were planning to scrap their mobile. was the main opposition party. just starting to learn English. libraries to donate them to the group instead.

While TAAA received these used mobile libraries in Japan help bring books to children for free, they have had to pay about the problems facing in isolated communities in shipping costs. In this they have been helped by discount rates offered by Mitsui O.S.K. Lines Ltd. The shipping line has also generously shipped books free of charge to South Africa for TAAA, according to Noda.

Noda became interested in



Chikako Noda

South Africa about six years that were no longer needed. ago. She started working as a volunteer at the Tokyo office of the African National Congress, which at that time for blacks in South Africa. There she came into contact for black children arose in with many ANC members who visited Japan and told her blacks in South Africa.

clothes to South Africa evolved into the project to send English books. At first TAAA asked junior high and senior high schools in Saitama to contribute textbooks used in English classes

part from the strong disadvantage that blacks faced as a result of the apartheid policy of discrimination in South A project to send used Africa before the passage of a new Constitution in December 1993. A recent trip to South Africa by four members of TAAA

> brought home the extent to which more books would have to be sent to be of real help to the South African people.
> Noda explained that in most schools attended by blacks the children lack textbooks for study. The only books are used by the teachers who

read to the children and show

showed not only that their

past contributions were mak-

ing a difference, but also

them the illustrations. Fusamichi Shitaya, a high school teacher in Saitama Prefecture, said even with the serious disadvantages they face, the facial expressions of black school children in South African classrooms showed him that they had an obvious strong desire to learn, unlike many children in Japanese classrooms.

One of the success stories witnessed by the group was in Daveytown, a black township in Benoni, outside of Johannesburg, where TAAA



Residents of Northern Ceres near Cape Town look over a mobile library sent from Japan by TAAA members.

had donated 3 million yen to These textbooks, that includbuild a support center for a ed simple short stories, were mobile library based there. often found to be excellent for The money provided for a black South African children brick building that contained not only a garage for the The need for English books mobile library, but also a store area for extra books that were categorized and pre-

> library by a specialist. Kenichi Kitazume, a librarian in Saitama Prefecture who also went on the November trip, pointed out that some mobile libraries in Saitama even lack specialists.

pared for use in the mobile.

Kitazume has been involved in mobile libraries in Saitama for many years, and was able to exchange views on their operation while on the trip to South Africa.

The group realizes that more books will have to be sent to South Africa to keep the mobile libraries going. As Kitazume said, a stock of books about double the population of the area covered by a single mobile library is needed to ensure an adequate number for borrowers.

TAAA welcomes all kinds of books in English, including dictionaries, novels and nonfiction works. The books can be sent to Chikako Noda, 5-17-1 Oto, Yonoshi, Saitama Prefecture 338-0012. For more information, call Noda at 048-832-8271 or fax 048-832-3607. The group also welcomes monetary donations and volunteers willing to help with packing of books and other tasks.

送っている単語市の「アジ ア・アフリカと共に歩む 会」(町田干寒子代表)が にEE、 リス北浦和駅番日の 異治動会館で活動報告会を

同会は1992年の政立 以来、約11万甲の数科響や 本のほか、興内や東京都内 た木散になった物型図製品 車で台を関アに送ってき た。今回の報告会は、昨年 **江戸、野田さんらが訪問し** た際の角アの単行などにつ

ン・マンデラ氏が初の黒人 大統領に就任、南アのアパ

くただぼんやいと定ってい る客が見られる一と野田さ んは話す。民主化の結果、 黒人の移住の自由ができ、 都市部に入口が集中したた ルドベイト(人種属雑)攻 め学校が用り作くなり、コ 策は終えんした。しかし、 ンテナを教室にしたり、教 科響もほとんど生徒に行き 届かない状態だという。「か 保っていることに、ほこん から、日本の英語の教科書 と変化はない」とまりそう るべからい すこく聞け そのる。繁華なアールサー 1017 の自宅、車を最低ら合きなり、

宅に住むのが管理だ。「厚

関節を歩けば、たくさんの 2代の黒人の若者が賑もな

機能会は生後の時から 物に関いるの円。数な種を **黒人のメイドと歴にらが出** 入りする平均的な日人の生ま、幾級金を募集している。 西は鳴いているとの。 日 100400 - 00001 - 00010

【大鷹 阿幣】



野田さんらの防閉を飲迎して歌う南アの小学生に た。昨年に月、野田に樹さん写す

多數學的 医二种人的 大的 医皮肤 医皮肤 医皮肤

多った程 からばははら こりかれるが高ままり

北京保管社会計画は関係がある大学、対学しる法

光英していた。父妻に異人で終わっくり字受ける



Students at Sawela Elementary School in the outskirts of Durban sing a song of welcome to visiting TAAA members last November.

の 生物がありませい 自転入路 (資本を含まり)

き難し持つ会員を回会しいしだけ経過を解説する

南アフリカで大歓迎の中古BM

「図書館雑誌」 1998.4号掲載より

野田千香子

この6年の間に小さな市民グループである「アジア・アフリカと共に歩む会」(TAAA)が南アフリカ共和国の黒人の多く暮らす地域へ送ってきた中古の英語の本は約12万冊、また中古移動図書館車は7台になった。そして現在も数千冊の本が90個のダンボールにバッキングされ、物置で次の船を待機している。最近廃車となった埼玉県浦町車工場で再整備中である。1年に1~3台の移動図書館車と2~3万冊の英語の本の送付のペースがこの数年続いていて、今後数年間もほぼこのペースで送り続けていける見通しである。

●南アと日本の関係

過去における日本と南アフリカ共和国の関係には見過ごすことのできない影がある。数10年続いた南アの人種隔離政策アバルトヘイトが世界中の非難の的となっていた1980年代の半ばに、国連は南アに対する経済制裁を決定した。しかしこの年、日本は2年連続して世界一の対南ア貿易国となったのであった。アメリカや北欧などで南ア製品の不買運動が盛り上がっていた時、日本では一部の人々を除いて多くが無関心であり、政治家の中には南アとの友好関係を結ぶ者さえあったのである。

1994年に黒人初参加の選挙で ANC の新政権が 誕生した南アフリカは、黒人も白人もその他の 人々も平等な政治的権利を得たとはいえ、アパルトへイト時代に占有された白人の経済的権利はそ のまま継続されている。これは教育の分野にも言 えることで、白人の多い学校は設備や教育内容が 充実していて、反対に黒人地域の多くの学校は校 舎も設備も極端に貧しい。倉庫や教会の礼拝堂を 借りて、一つの部屋にぎっしり何クラスも入って いることもある。黒人が白人たちとほぼ同程度の 教育を受け、職業に就ける能力を持って初めて平等な権利を得たということができるのである。アパルトペイトの遺したものはあまりに大きく根が深く、人種間の平等の実現には長い年月がかかり、そうであるが、日本人として少しずつでも応援していきたいと思っている。

●TAAA の出発から移動図書館送付まで

1992年4月に埼玉県南部と東京近辺を中心に TAAA は発足した。当時、南アの ANC 東京事務 所をボランティアとして手伝ったことをきっかけ に、南アのリーダーの要請に応えて日本の英語の 中古の教科書を識字の教室のテキストとして送る 約束をしたのであった。

新聞報道などで全国からの支援を得るようになり、本の冊数も種類も送付先も拡大していった。 寄付金だけで賄いきれない経費は、大阪商船三井 船舶の港から港まで無料で輸送するという申し出 と郵政省のボランティア貯金からの配分金を受け ることで解決した。

1994年 3 月末,初めて TAAA から南アフリカ の本の送付先を訪問した。

ジョハネスバーグ郊外の閑静な住宅地であるベノニ市にメソジスト教育団体 (MEI) の代表ベントレイ氏の家はあった。ここから車で15分ほどのところにデベトンという黒人やインド系の人々が暮らす広大な地域がある。人口は40万と言われているが、地方から都市部へ移住する人々でふくれ上がってきている。学校はここだけで40校あるがレンガ作りのものから壊れかけた粗末なブレハブや倉庫を利用したものまであって一様ではない。

訪ねた小学校には例えば、生徒数1,200人で図書が100冊くらいしかないか、あるいは全く本のない学校もあるという状態であった。家庭にも学校にもほとんど本がない、という状態の中で、大

いるが、この地域だけでも子どもは7万人以上い て砂漠に水をまてようなものだ。いつか移動図書 館を使って少ない本を有効に巡回して使用してい ければうれしい」と将来の夢を語っていた。

切外変変 先引 こめきそく トロヤヨギ

帰国後、たまたま友人からの情報で移動図書館 車の廃車になったものを無料でもらいうけること。 が可能であることを知った。専門家に相談してみ ると、再整備して外国でまだ十分に使えるという ことであった。船会社は、格安にひきうけてくれ るという。残る問題は南アへ入る時の輸入関税が 200%という高額なものであるという点であった。 調べてみると南アを含む近隣5か国の関税同盟が あり、南アに関しては南アの通産大臣が関税免除 許可の特例措置の権限を持っているということで あった。経済会議に来日した通産大臣に面会し、 これを得るのに成功し、その数か月後に残り4か 国の承認を得ることもでき、無事に輸送の運びと なったのである。

南アの貿易港であり、砂糖キビの生産地を周囲 に持つダーバン市の NGO である英語教育財団 (ELET) に主台、もう、1/台はベノニ市の MEI に 送った。ダーバンの ELET の車は、多少の修理の 後, 元気よくダーバン市周辺の広域, 数100kmを走 り回り、大活躍を始めた。日本における移動図書 館の個人貸出システムではなく、ELET では彼ら の通常の教員への授業の指導の講習会に使う教材 や TAAA が送った本の学校への配付や学校単位 の貸出しにこの車を使っている。ベノニ市の MEI に送った車はしばらくの間、白人住宅地域のベン トレイ氏宅の前に保管されていたが、ボランティ



▲ダーバン郊外のアルデンヴィレ学校にて』(1996年)

勢の子どもたちが日々を過ごしていた。 Alia Companies デア貯金配分金と TAAA の資金によって建設した メソジスト協会のベントレイ氏は「たくさん本」と会デベトン中等学校内のガレージ兼書庫に納まり、 を送ってもられ デベドンの学校へ平等に配って 🗔 到996年11月に落成式を行い、1997年に少しずつ稼 働の運びとなった。

> 落成式には TAAA のスタッフと埼玉県立浦和 図書館司書の古我貞夫氏が出席した。全校生徒が すばらしい歌声で喜びをあらわしてくれ、またハ ウテン州教育局のベノニ市担当官らも出席、地元 の建設業者やロータリークラブなども出席し、地 元の新聞記者のインタビューを受けたり,と大き」 な期待と関心と歓迎の気持ちをひしひしと感じた のであった。

その後 MEI は州の教育局の図書情報サービスと変 部からの応援やほかのボランティアの司書たちの 応援を得て少しずつ、学校単位の移動図書館を運 行しはじめている。落成式の際にはガランとして。 いた建物内に高い書棚が並びかなりの本が入り貸 🗟 出システムが整備されつつあった。まだ本が足り ないため、数校を回るので精一杯であるが、おい おい後から送ったもう1台とともに40校を定期的 🦠 に回る方向へと努力していた。

●行政が乗り出す

1997年11月に埼玉県熊谷図書館司書の北爪健― 氏とともに南アを訪れた際、私たちはハウテン州 の教育局を訪ね。図書情報サービス部の部長以下 スタッフと MEIと TAAA で会議をもった。これ まで、図書情報サービス部は、MEIへ人を送り、 図書整備を援助してきたが、今後、彼らの教育プ ロジェクトの中に新しい試みとして学校を巡回す る移動図書館の項目をつくり、予算を組み、十数 か所で日本からの移動図書館を受け入れた活動を 行っていくことが決定した。これは南ア始まって 以来の新しい試みであり。現在南アが抱えている意思意 教育問題を解決する上で、大きな貢献をすること になるだろう、と部長のケラー氏は大変な張り切 りようであった。TAAAとしてもこれは大変あ りがたいことである。受け入れ先がNGOばかり では運行費などが不足し、数が多くなってくると 私たちの支援では追いつかなくなるからである。 私たちが本と車を送る。 南アの NGO と行政がこ れを自主的に運行していく、という方向へ一歩踏 み出せたことが、今後の活動への見通しを明るく。 している。マテニュロス自己をロテ

② () る。 」、(のだ) ちかこう アジス・スプリカと共に歩む会)。

| 空間 [NDC9:015.5 BSH:1.自動車文庫 2.南アフリカ共和国]



1995年ンゾ外相(左)とNGOの人たちとのミーテイングにて、ドミサニ(中央)

平成9年度(₹は9年4月~₹は10年3月) 決算書

収入の部		•
寄付金	1,129,745	個人からの寄付
物品販売	56,110	ルイポステイ・書籍の販売
講演料	30,000	
難政省配分金	4,155,000	-
埼玉県国際交流協会	50,000	
利息	3,658	郵便局、銀行
前年度経越金	3,511,580	
8t	8,936,093	
支出の部		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
本輸送費	396,574	
通信費	284,694	電話, FAX、切手, はがき等
交通費	5,277	
講演費	2,770	髒演会会堪費
会議費	2,000	
印刷費	100,918	会報、案内の印刷、コピー
事務費	134,373	用紙、写真代、封筒代等
図書館車踏経費	758,948	
現地活動援助費	2,240,000	•
現地視察費	1, 128, 157	
姓贵	37, 213	
計	5,090,924	
差引残高	3,845,169	平成10年度へ提越

お知らせ

☆1997年度の決算書を掲載いたします。残高の中から80~90万円を5月末に南アへ送金する予定です。

☆次回の会報は、作業などに参加 している人たちのプロフィルや活 動中の写真などを紹介します。 ☆英語の本や教科書は常時、募集

☆英語の本や教科書は常時、募集 しています。寄付金も活動源とし て必要不可欠なものです。常に大 歓迎しております。

☆手紙や現金は本とは別にお送り 下さるようお願いいたします。

◆ルイボステイ (南ア産健康茶) を販売しています。 1 箱 (80パック) 2000円 5 箱より送料 無料 (4 箱以下は送料一律500円)。氏名、電話、住所をお知らせ下さい。ご注文後、お茶と一緒に振込み用紙をお送りいたします。

浅見克則

◆会報がご不要の方は電話、Fax、ハガキなどでご一報下さい。

金融監査

自由南アフリカの声

上記の通り報告いたします。 平成10年3月25日

第17号

1998年5月20日発行

新派 アジア・アフリカと共に歩む会

〒338-0012埼玉県与野市大戸5-17-1 野田方 # 048-832-8271 Fax048-832-3607 繁擬 : 「アジア・アフリルと以来が会」00100-4-608515

新人野田千香子 鰈人 久我祐子